

## ■1 ジャポネズリー(Japonaiserie)からジャポニスム(Japonisme)

### 1 ジャポネズリー 日本趣味

(1)浮世絵の模写

(2)浮世絵が描かれる作品

### 2 ジャポニスム 日本芸術の諸要素を消化して作品の中に取り込む

(1)構図

①近代遠小／視点の高さ

②目隠しのような構図

画面の縁でモチーフを切り取る

一部を描いて全体を想像させる

③視点の高さ

(2)線描と輪郭線

(3)色彩と陰

(4)日本的主題・モチーフ

①日常の生活が描かれる

②花や昆虫

③装飾的な背景

## ■2 ゴッホのジャポニスム

浮世絵展を開催

部屋に浮世絵を飾る

《タンギー爺さん》

模写は広重だが手紙ではゴッホ コレクションも広重

ドビュッシーも

## 資料 ① この1000年（1000～1999）で最も重要な功績を残した世界の人物100人

ライフが選定した、「Life's 100 most important people of the second millennium」は以下のとおり。

1. トーマス・エジソン（アメリカ）
2. クリストファー・コロンブス（イタリア）
3. マルティン・ルター（ドイツ）
4. ガリレオ・ガリレイ（イタリア）
5. レオナルド・ダ・ビンチ（イタリア）
6. アイザック・ニュートン（イギリス）
7. フェルディナンド・マゼラン（ポルトガル）
8. ルイ・パスツール（フランス）
9. チャールズ・ダーウィン（イギリス）
10. トーマス・ジェファーソン（アメリカ）
11. ウィリアム・シェイクスピア（イギリス）
12. ナポレオン・ボナパルト（フランス）
13. アドルフ・ヒットラー（ドイツ）（オーストリア）
14. 鄭和（中国）
15. ヘンリー・フォード（アメリカ）
16. ジークムント・フロイト（オーストリア）
17. リチャード・アークライト（イギリス）
18. カール・マルクス（ドイツ）
19. ニコラウス・コペルニクス（ポーランド）
20. ライト兄弟（アメリカ）
21. アルベルト・アインシュタイン（ドイツ）（スイス）（アメリカ）
22. マハトマ・ガンジー（インド）
23. クビライ（モンゴル）
24. ジェームズ・マディソン（アメリカ）
25. シモン・ボリバル（南アメリカ）
26. メアリ・ウルストンクラフト（イギリス）
27. グリエルモ・マルコーニ（イタリア）
28. 毛沢東（中国）
29. ウラジミール・レーニン（ロシア）
30. マーティン・ルーサー・キング・ジュニア（アメリカ）
31. アレクサンダー・グラハム・ベル（スコットランド）（カナダ）（アメリカ）
32. ルネ・デカルト（フランス）
33. ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン（ドイツ）
34. トマス・アキナス（イタリア）
35. エイブラハム・リンカーン（アメリカ）
36. ミケランジェロ・ブオナローティ（イタリア）
37. ヴァスコ・ダ・ガマ（ポルトガル）
38. スレイマン1世（トルコ）
39. サミュエル・モールス（アメリカ）
40. ジャン・カルヴァン（フランス）
41. フローレンス・ナイチンゲール（イギリス）
42. エルナン・コルテス（スペイン）
43. ジョセフ・リスター（イギリス）
44. イブン=バットゥータ（モロッコ）
45. 朱熹（中国）
46. グレゴール・ヨハン・メンデル（オーストリア）
47. ジョン・ロック（イギリス）
48. アクバル（インド）
49. マルコ・ポーロ（イタリア）
50. ダンテ・アリギエーリ（イタリア）
51. ジョン・ロックフェラー（アメリカ）
52. ジャン=ジャック・ルソー（フランス）
53. ニールス・ボーア（デンマーク）
54. ジャンヌ・ダルク（フランス）
55. フレデリック・ダグラス（アメリカ）
56. ルイ14世（フランス） オーストリアハンガリー（現在クロアチア）で生まれる
57. ニコラ・テスラ（セルビア）（アメリカ）
58. イマヌエル・カント（ドイツ）
59. 范寛（中国）
60. オットー・フォン・ビスマルク（ドイツ）
61. ウィリアム1世(イングランド王)]（フランス）
62. ガイード・ダレツォ（イタリア）
63. ジョン・ハリソン(時計職人)（イギリス）
64. インノケンティウス3世(ローマ教皇)（イタリア）
65. ハイラム・マキシム（アメリカ）
66. ジェーン・アダムズ（アメリカ）
67. 曹雪芹（中国）
68. マテオ・リッチ（イタリア）
69. ルイ・アームストロング（アメリカ）
70. マイケル・ファラデー（イギリス）
71. イブン=スィナー（ペルシャ）
72. シモーヌ・ド・ボーヴォワール（フランス）
73. メヴラーナ・ジェラルディン・ルーミ（ペルシャ）（アフガニスタン）
74. アダム・スミス（スコットランド）
75. マリ・キュリー（ポーランド）（フランス）
76. アンドレーア・パツァーディオ（イタリア）
77. ピョートル1世（ロシア）
78. バプロ・ピカリ（スペイン）
79. ルイ・ジャック・マンデ・ダゲール（フランス）
80. アントワーヌ・ラヴォアジエ（フランス）
81. P・T・バーナム（アメリカ）
82. エドウィン・ハッブル（アメリカ）
83. スーザン・B・アンソニー（アメリカ）
84. ラファエロ・サンティ（イタリア）
85. ヘレン・ケラー（アメリカ）
86. 北斎（日本）
87. テオドール・ヘルツル（オーストリア）
88. エリザベス1世(イングランド女王)（イギリス）
89. クラウディオ・モンテヴェルディ（イタリア）
90. ウォルト・ディズニー（アメリカ）
91. ネルソン・マンデラ（南アフリカ）
92. ロジャー・バニスター（イギリス）
93. レフ・トルストイ（ロシア）
94. ジョン・フォン・ノイマン（アメリカ）
95. サンティアゴ・ラモン・イ・カハール（スペイン）
96. ジャック=イヴ・クストー（フランス）
97. カトリーヌ・ド・メディシス（イタリア）（フランス）
98. イブン=ハルドゥーン（チュニジア）
99. クワメ・エンクルマ（ガーナ）
100. カール・フォン・リンネ（スウェーデン）

## 資料② ゴッホの手紙より

ベルナル宛書簡18 1888年9月 日本の芸術家たちがお互い同士で作品を交換したことに、僕は前から感心していた。それはお互いに愛し合い助け合っていたし、彼等の間にはある種の融和があったに違いない。きっと情誼に厚い生活で、もちろん、陰謀もないだろう。われわれが、こうしたところを見習えば見習うほど一層よくなるはずだ。なんでも日本人たちはごく僅かの金しか稼がず、普通の職人のような生活をしたそうだ。僕は《一茎の芽生え》の複製（ビング蒐集）を持っている。なんて典型的な良心なんだろう。いつかそれを君に見せよう。

以下テオ宛

437(1885年) 画室の壁いっぱい日本の版画をピンで止めた。庭や海岸にいたる小さい女たち、馬上の人、花、節くれだった茨の枝などのものを。

463(1888年 以下すべて) 雪があたり一面少なくとも60センチは積もったアルル地方の風景は、まるでもう日本人の画家たちが描いた冬景色のようだ。

491 ペン描きのデッサンをやりたい。日本の版画のように濃淡のない画面にする。

500 たとえ物価が高くても南仏に滞在したいわけは、次の通りである。日本の絵が大好きで、その影響を受け、それはすべての印象派画家たちにも共通なのに、日本へ行こうとはしないつまり、日本に似ている南仏に。結論として、新しい芸術の将来は南仏にあるようだ。

日本人は素描をするのが速い、非常に速い、まるで稲妻のようだ、それは神経がこまかく、感覚が素直なためだ。

509 〈お菊さん〉を読んだことがあるかい。それによると本当の日本人は壁にはなんにも掛けないらしい、僧庵やお堂には書があるだけで何一つない、『素描と骨董は抽斗の中に隠してある』。ああ！こうやって日本美術を鑑賞しなくっちゃ。見晴らしの利く、なんにもない、あかるい室で。

510 いずれにしても、絶対に委託を続けることをやめてはいけない。僕の仕事はみんな、多少とも日本画が基礎になっている。ビングにそのことを黙っていたのは、つまり南仏旅行がすんだら、おそらくもっと本気になってそれにとりかかれると思ったからだ。自国では衰退したこの日本芸術は、フランスの印象派芸術家たちの間にその根を下ろしている。これらの日本画は僕にとって技術面で、売買以上に興味があるし必要なのだ。もちろん商売としてもおもしろいさ、ましてやフランスの芸術が動いて行く方向を考えればなおのことだ。素描が異状なく届いたら一筆くれ給え。

タンブーランで僕がやった日本版画の展覧会はさんざんな目だった。ブルヴァール・ド・クリッシーの二回目の展覧会は骨を折っただけであった。

511 けれども、もしぼくが一日でもパリへ帰ることがあったら、ぼくはやはりただ北斎やその他最盛期の版画を見るために、バンの店に寄るだろう。それに、ぼくが普通の版画にあれば感心していた頃、バン自身がいずれ後でもっと別のを見せましようと言っていたのだから。…他の店ならこんなことはまずない。つまり高いと思ってみんなバンの店にゆくの怖がっているからだ。ところで、ぼくがまだ漁って見ないのは、何百、何千という綴本のある書庫だ。…ぼくは今日の夕方すばらしい実に不思議な色彩効果を見た。炭を積んだ大きな船がローヌ側の岸に繋がれていた。上から見ると夕立に濡れてきらきら光っている。水は黄色がかった白曇ったグレイの真珠色で、空は薄紫、西にはオレンジ色の帯があつて、町は藁色だった。船の上では、青と白との服を着た小さな労働者が陸揚げする船荷を運んで右往左往していた。まるで北斎そっくりだ。絵を描くにしては時間が遅すぎたが、今度あの石炭船が帰ってきたときには、是非あれをやらなくっちゃならない。それを見たのは最近発見した鉄道の作業場で、まだ他にも描けそうなものがあると思う。

533 北斎を見て「あの波は爪だ、船がその爪に捕まれているのをかんじる」ときみの手紙にあったけれども、北斎もまた君と同じ嘆声をあげさせたのだ。ただし彼の場合は線とデッサンによ

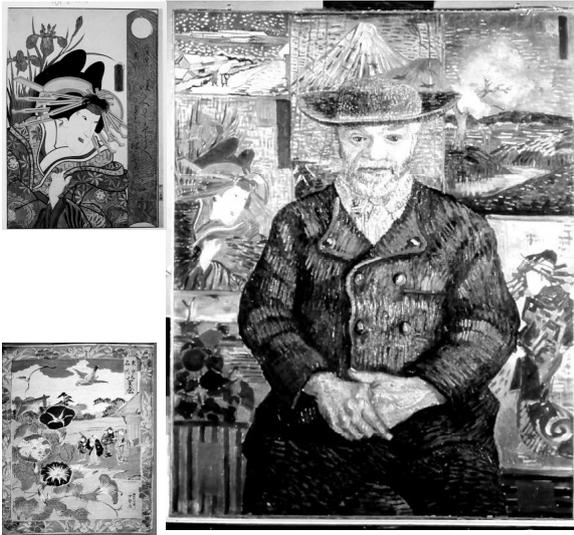
っている。

542 バンの複製の中にある北斎の「草の芽」と撫子をすばらしいと思った。しかしどういわれようと、平板なトーンで彩色したどんなありふれた日本の版画も、ぼくにはリューベンスやヴェロネーズと同じ理由で、すばらしいものなのだ。……日本芸術を研究するとあきらかに賢者であり、哲学者で知者である人物に出会う。その人は何をして時を過ごしているのだろうか。地球と月の距離を研究しているのか。ちがう。ピスマルクの研究をしているのか。いや、ちがう。その人はただ一本の草の芽を研究しているのだ。……ぼくは日本人が何をやってもきわめて、てきぱきしているのを羨ましく思う。それは決して退屈な感じを与えず、決して大急ぎでやった風にも見えない。彼らの仕事は息をするのと同じくらい簡単で、狂いのない2、3本の線で同じように楽々と人物を描いてしまう。まるでチョッキのボタンを留めるのと同じくらい簡単だというようだ。

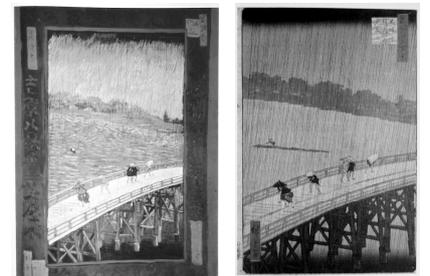
543 この天気はとても良く、まるで日本そのものだ。

### 資料③ ゴッホの模写は広重

ゴッホ 《タンギー爺さん》  
(ロダン美術館所蔵)



名所江戸百景 亀戸梅屋舗

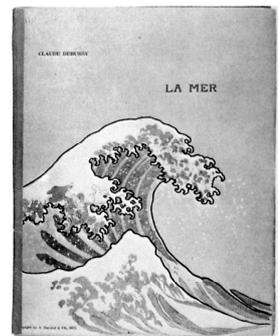


名所江戸百景 大橋あたけの夕立

### 資料④ ドビュッシーと北斎



ドビュッシーは、交響詩『海』の楽譜表紙に遠い異国の浮世絵北斎の「神奈川冲浪裏」を使っています。海と無縁のブルコニーの田舎でこの曲を書いた彼。友達少ない（と言われている）彼にこんな写真が残っています。（ドビュッシーの自宅の壁に、北斎の版画）左がドビュッシー。右が



ストラヴィンスキー。撮影したのは、サティです。(\*。^\*)

【ドビュッシー 交響詩《海》】 初版楽譜表紙

(<http://blog.livedoor.jp/waltz122/archives/2006-02.html> より)